

2023年11月期 決算説明会

2024年2月2日

株式会社ノダ

NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

目次

- グループの状況 P 3
- 連結業績概況 2023年11月期 P 9
- 連結業績予想 2024年11月期 P22
- 配当予想 P34
- 中長期的な成長戦略 P36
- ESGに関する取り組み P43

NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

グループの状況

グループの出資状況

【連結決算対象会社の状況】

《連結子会社》

アドン(株)

(株)ナフィックス

スラインダー社 (インドネシア)

石巻合板工業(株)

アイピーエムサービス(株) * * 石巻合板工業(株)の100%子会社

※出資比率：石巻合板工業(株)は80%、それ以外は100%

《持分法適用関連会社》

サンヤン社 (マレーシア)

※出資比率：49%

【上記以外の状況】

《非連結子会社》

(株)巴川製作所

(株)アリモト工業

※出資比率：いずれも100%

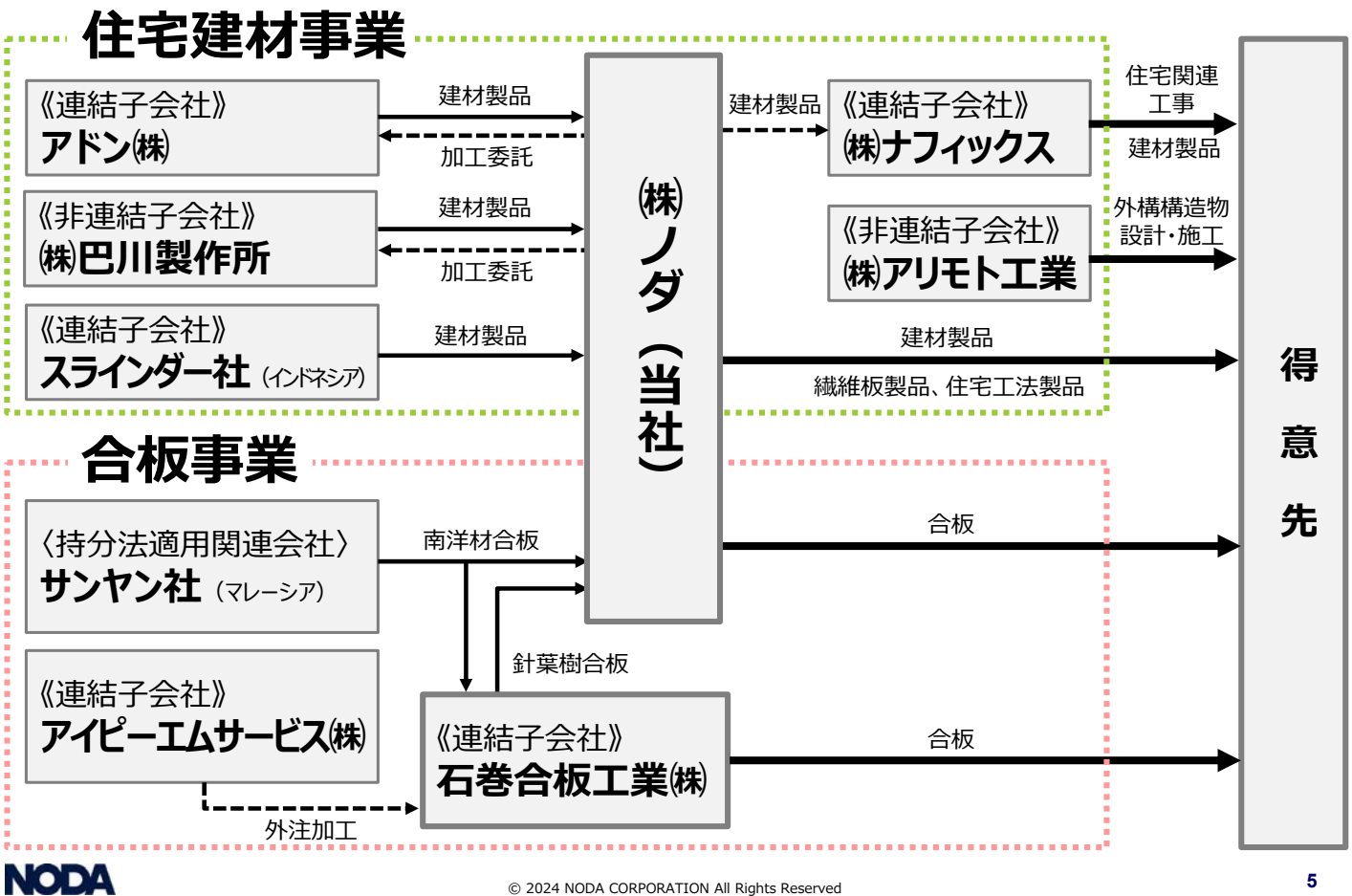
《資本提携》

IFI社 (インドネシア)

※出資比率：7.4%

2023年7月31日に子会社化

グループの事業系統図



グループの事業分野（住宅建材事業）



グループの事業分野（合板事業）

国産針葉樹合板

構造用ヒノキハイブリッド



構造用針葉樹合板



【生産拠点】

株ノダ 富士川工場
(静岡県富士市)



石巻合板工業(株)
(宮城県石巻市)



サンヤン社
(マレーシア)



単板積層材 (LVL)



オールヒノキ（無節）



ラワン構造用合板



塗装型枠用合板



輸入南洋材合板

NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

7

グループの拠点概要

(2023年11月末現在)

営業拠点
49ヶ所

生産拠点
7ヶ所

ショールーム
7ヶ所

国内 4ヶ所
海外 3ヶ所
※資本提携先を含む



NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

8

連結業績概況

2023年11月期

連結業績ハイライト（総括）

減収減益

(金額単位：百万円)	前期実績	当期実績	前期比
売上高	81,012	73,227	▲7,784 (▲9.6%)
営業利益	9,797	4,701	▲5,095 (▲52.0%)
経常利益	10,332	5,019	▲5,313 (▲51.4%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,056	2,834	▲3,222 (▲53.2%)

住宅業界を取り巻く事業環境

製造コストの上昇

- ・円安もあり、原材料・副資材価格や物流費等のコスト高が継続

新設住宅着工戸数の減少

- ・建築コストの高騰などにより、住宅取得マインドが低下
- ・特に持家（注文住宅）の低迷が顕著（前期比▲11.4%）

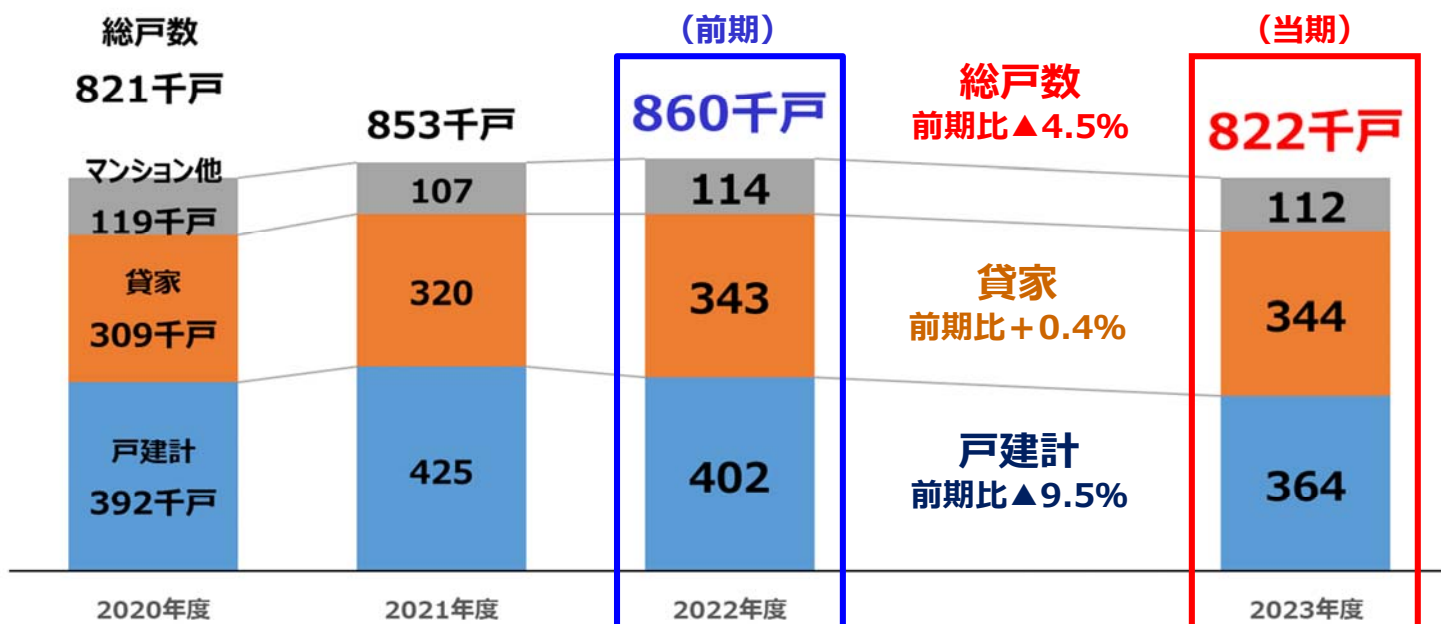
合板相場の調整（ウッドショックの反動）

- ・需要の減少により、国産・輸入とも相場は調整局面で推移
- ・出荷に合わせた生産・仕入調整により、在庫水準を適正化
- ・しかし、市況は弱含みが続き、出荷の本格回復には至らず

新設住宅着工戸数の状況（12月～11月）

- ・総戸数は前期比▲4.5%
（内訳：持家▲11.4%、分譲戸建▲6.1%、貸家+0.4%）
- ・当社グループの販売に関係深い「持家+分譲戸建」は同▲9.5%

※戸数は単位未満切り捨て



資料) 国土交通省「住宅着工統計」

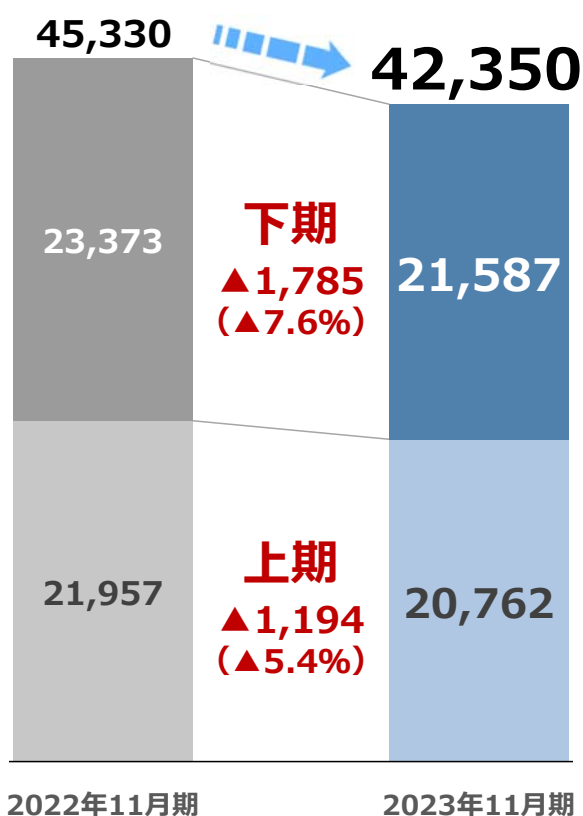
※各年度の期間は、12月～11月の12ヶ月間を示す

住宅建材事業

2023年11月期

連結業績のポイント（売上高）

(百万円)



住宅建材事業〈要因〉

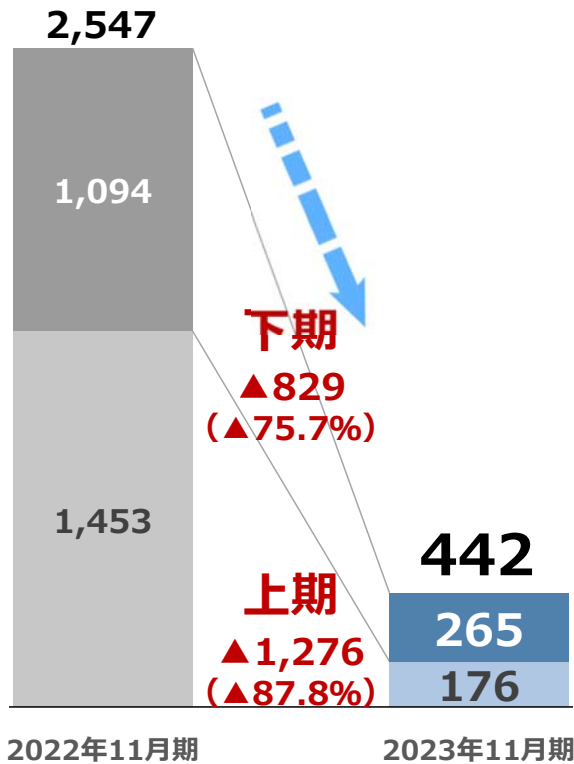
前期比 ▲2,979 百万円
(▲6.6%)

・販売量の減少

- ✓ 建材・MDF全般で減少
- ✓ 持家を中心に住宅着工が低迷し、販売を伸ばせず
- ✓ 販売単価は上昇
 - ・価格改定
 - ・新シリーズ「カナエル」発売

連結業績のポイント（セグメント利益）

(百万円)



住宅建材事業〈要因〉

前期比 ▲2,105 百万円
(▲82.6%)

- 販売量の減少
 - ✓ 製品当たり固定費負担増加
- シリーズ切り替えに伴う初期費用
- コスト高(原材料・副資材等)
 - ✓ 特にMDFの製造コスト上昇
 - ✓ 自助努力や価格改定では吸収しきれず

NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

15

合板事業

2023年11月期

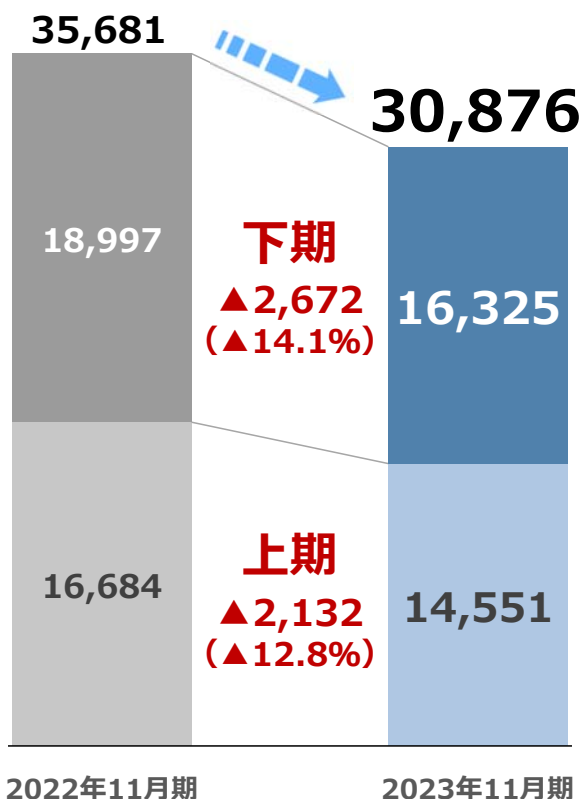
NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

16

連結業績のポイント（売上高）

(百万円)



合板事業〈要因〉

前期比 ▲4,804 百万円
(▲13.5%)

・販売量の減少

- ✓ 住宅着工の減少などにより、国産・輸入とも需要が低迷
- ✓ 下期は緩やかに回復

・相場は調整局面で推移

- ✓ 国産・輸入とも在庫が増え、販売価格は値下がり傾向

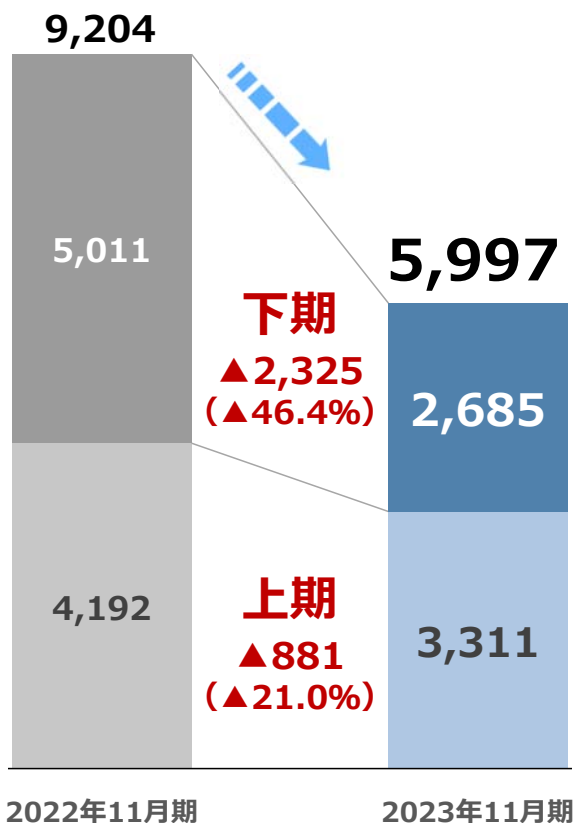
NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

17

連結業績のポイント（セグメント利益）

(百万円)



合板事業〈要因〉

前期比 ▲3,207 百万円
(▲34.8%)

・相場は調整局面で推移

- ✓ 販売価格は値下がり傾向

・コストアップ

- ✓ 国産針葉樹合板：生産調整により製品当たり固定費負担増加
- ✓ 輸入南洋材合板：円安により仕入コスト上昇

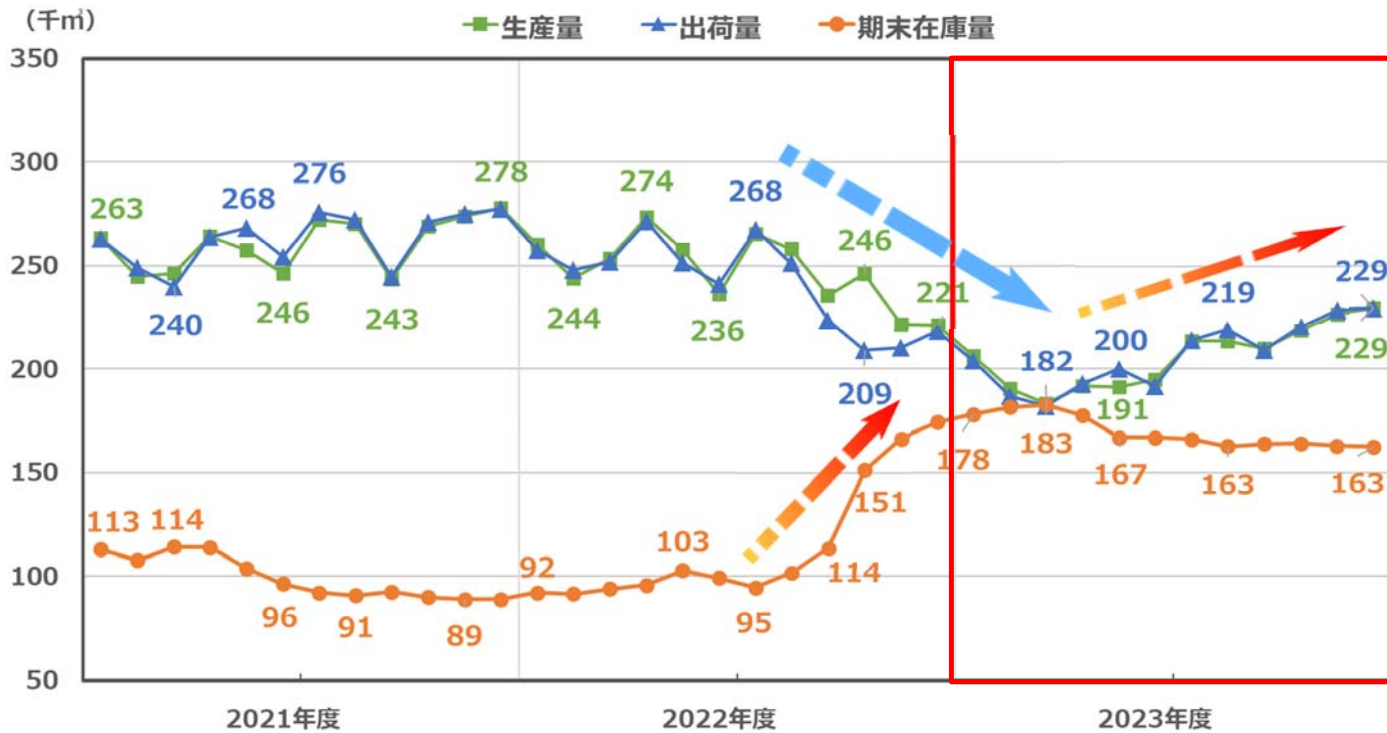
NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

18

国産針葉樹合板 生産・出荷・在庫 推移

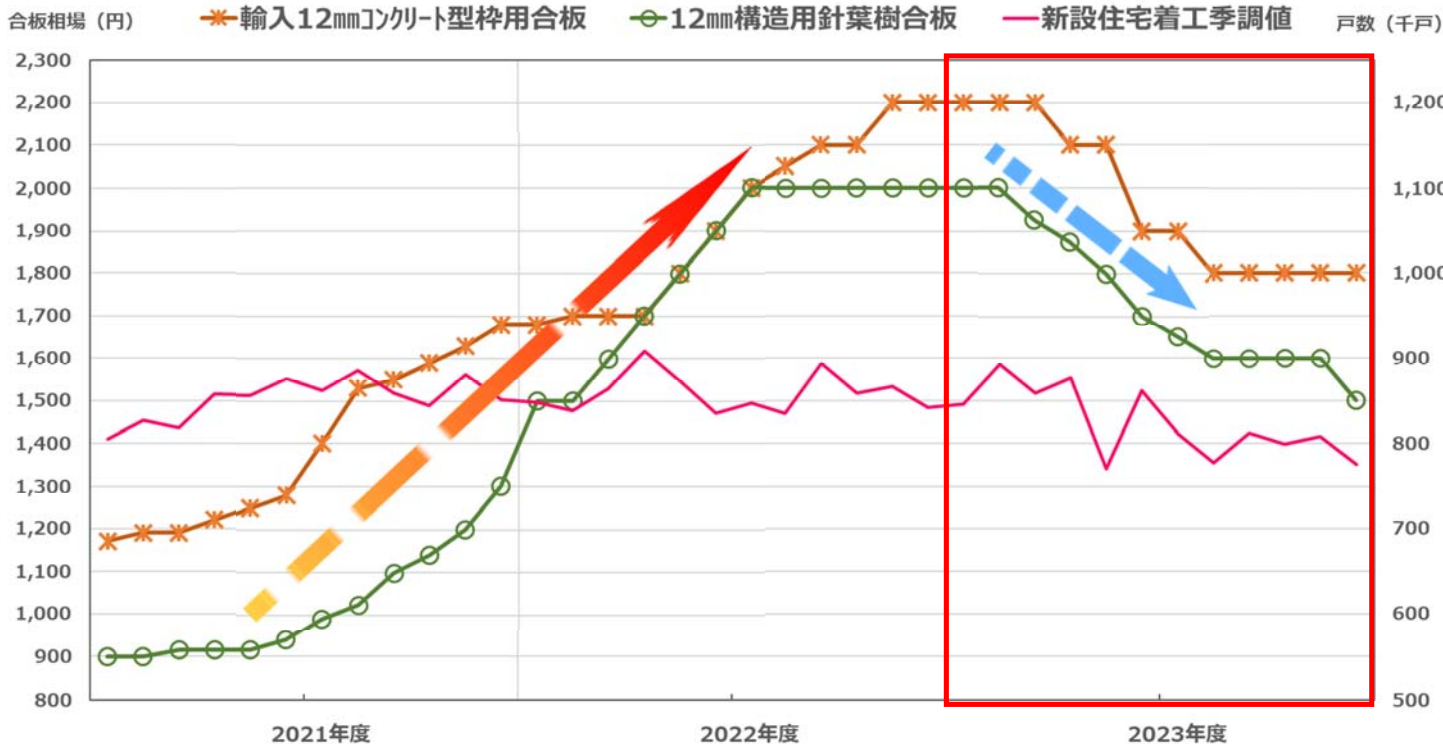
生産調整継続により在庫整理は進んだが、出荷量の本格回復には至らず



資料) 農林水産省「合板統計」

市場環境認識 (合板相場)

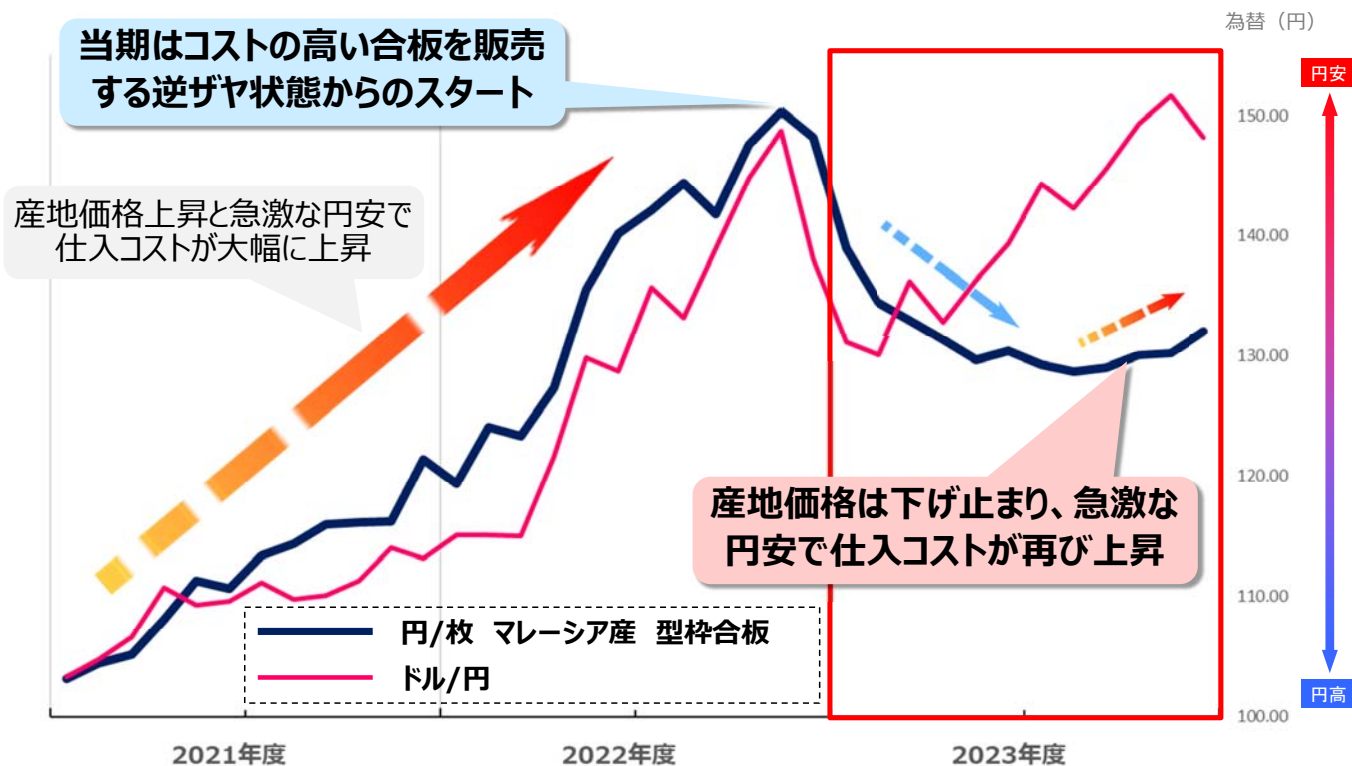
ウッドショックから一転して需給が緩和し、合板相場は調整局面で推移



資料) 日刊木材新聞社「相場表」(針葉樹合板、輸入合板)、国土交通省「住宅着工統計」

輸入南洋材合板 仕入コスト推移

円安による仕入コスト上昇を販売価格に転嫁できず、低採算が続く



NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

21

連結業績予想

2024年11月期

NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

22

連結業績予想ハイライト（総括）

合板相場の調整とコスト高の継続により、減収減益

	通期予想	前期比
売上高	72,000 百万円	▲1,227 百万円 (▲1.7%)
営業利益	2,800 百万円	▲1,901 百万円 (▲40.5%)
経常利益	3,000 百万円	▲2,019 百万円 (▲40.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,800 百万円	▲1,034 百万円 (▲36.5%)

NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

23

2024年11月期の事業環境

引き続き厳しい事業環境となる見込み

- 新設住宅着工戸数の低迷が長期化
 - － 住宅価格の高騰、物価高、職人不足
- コスト高の継続
 - － 円安による資材・エネルギー価格の高騰、物流費の上昇
- 合板相場は引き続き調整局面で推移
 - － 住宅需要の低迷長期化による競争激化
 - － 需要に即した生産・仕入を継続し、国内在庫は適正水準を維持

市場動向の先行きは依然として不透明

NODA

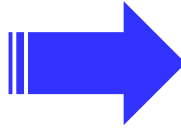
© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

24

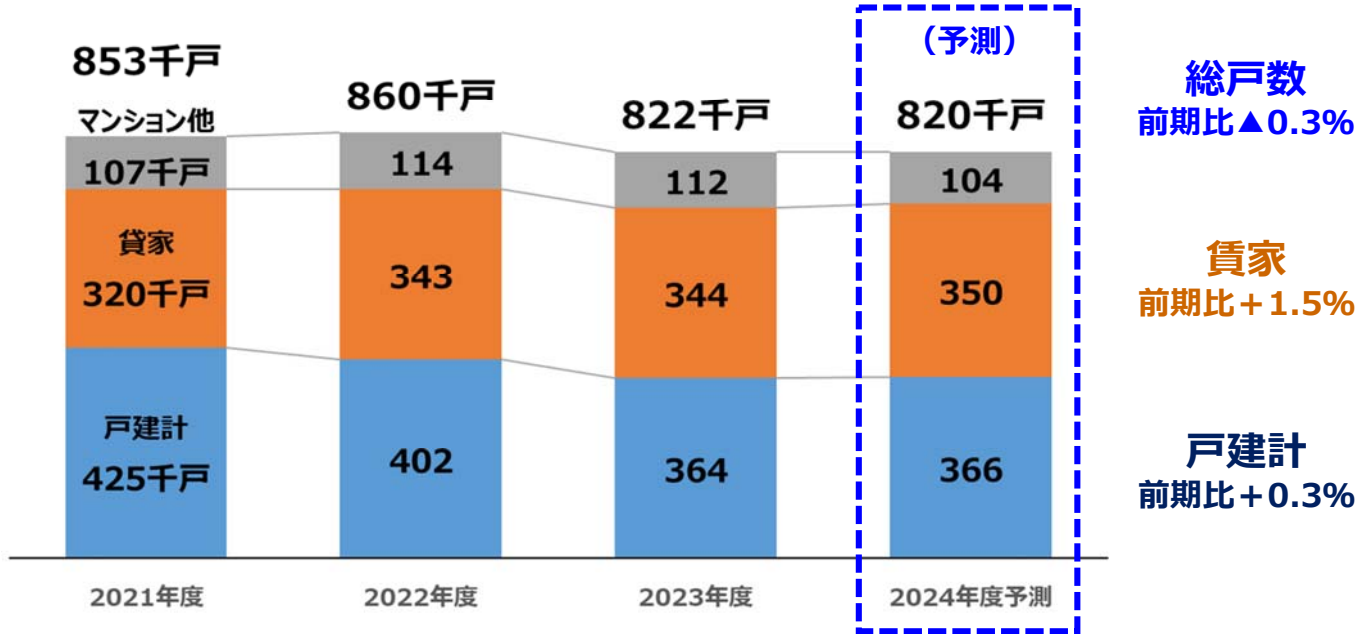
2024年度 新設住宅着工予測 (12月~11月)

※戸数は単位未満切り捨て

2023年度 住宅着工戸数
822千戸



2024年度 住宅着工戸数
820千戸(予測)
持家を中心に厳しい状況が続く



資料) 国土交通省「住宅着工統計」

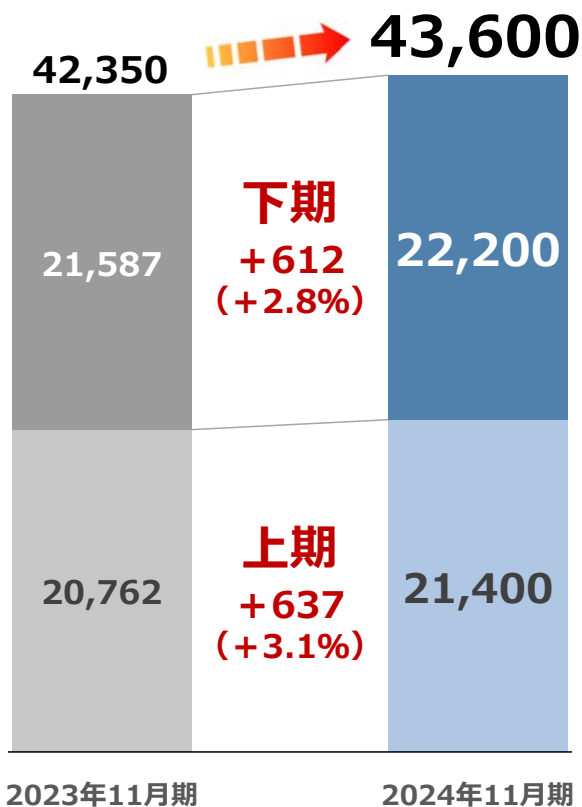
※各年度の期間は、12月~11月の12ヶ月間を示す

住宅建材事業

2024年11月期

連結業績予想のポイント（売上高）

(百万円)



住宅建材事業

前期比 +1,249 百万円
(+2.9%)

- 「カナエル」の定着・拡販
✓ 貸家、リフォーム・リノベーション、非住宅にも注力
- 高付加価値製品の提案
✓ 省施工、高意匠性、等
- HBWの拡販(構造用ハイベストウッド)
✓ ZEH普及等への対応

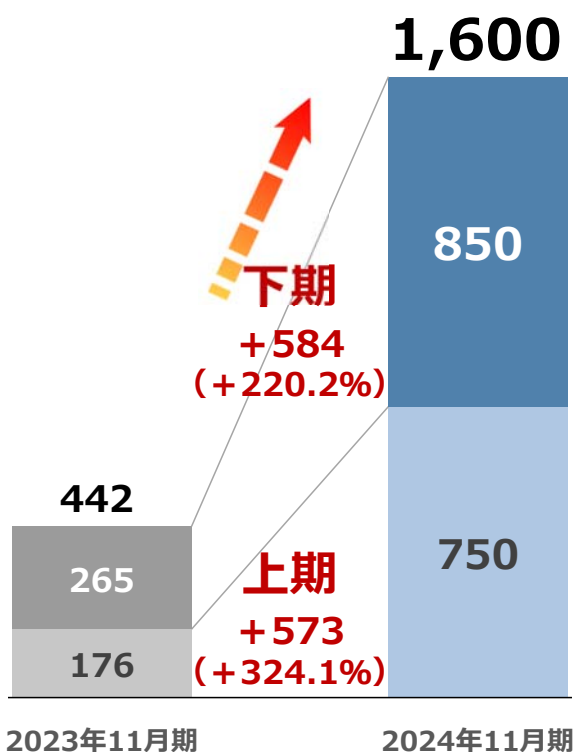
NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

27

連結業績予想のポイント（セグメント利益）

(百万円)



住宅建材事業

前期比 +1,157 百万円
(+261.8%)

- 販売量の回復に努める
✓ 製品当たり固定費の低減
- 製造コストダウンの徹底
✓ 原材料の見直し、歩留まりの向上、省力化等
✓ 電力料は前期より低下
- 物流費の抑制
✓ 配送効率、在庫削減向上

NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

28

内装建材「カナエル」の浸透・拡販

様々な市場への「カナエル」の提案強化により、既存顧客への浸透や新規顧客の獲得を図り、シェアアップ・売上高拡大を目指す



29

HBW（耐力面材）の拡販

国や自治体によるZEH※普及促進等を踏まえ、優れた耐震性能や透湿性能を持つMDF製品「HBW」(構造用ハイベストウッド)の提案を強化

※ZEH：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（エネルギー収支をゼロ以下にする家）

ZEHの普及に向けた政府目標*

- ・2030年度以降の新築住宅について、ZEH基準の水準の省エネルギー性を確保
- ・2030年、新築戸建住宅の6割に太陽光発電設備を設置

* 2021年10月閣議決定「第6次エネルギー基本計画」

東京都 環境確保条例の改正

- ・2025年4月から新築住宅への太陽光パネル設置義務化

相次ぐ自然災害（地震、台風）

地震・湿気・水害に強いHBWの拡販に注力

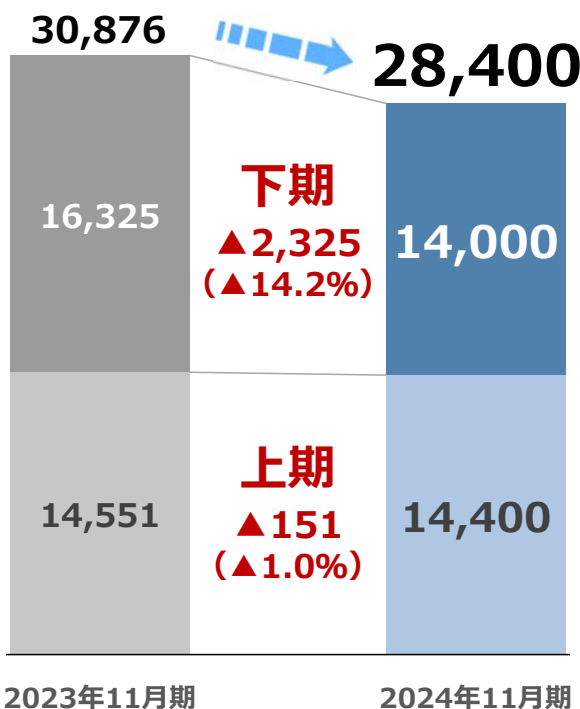


合板事業

2024年11月期

連結業績予想のポイント（売上高）

(百万円)



合板事業

前期比 ▲2,476 百万円
(▲8.0%)

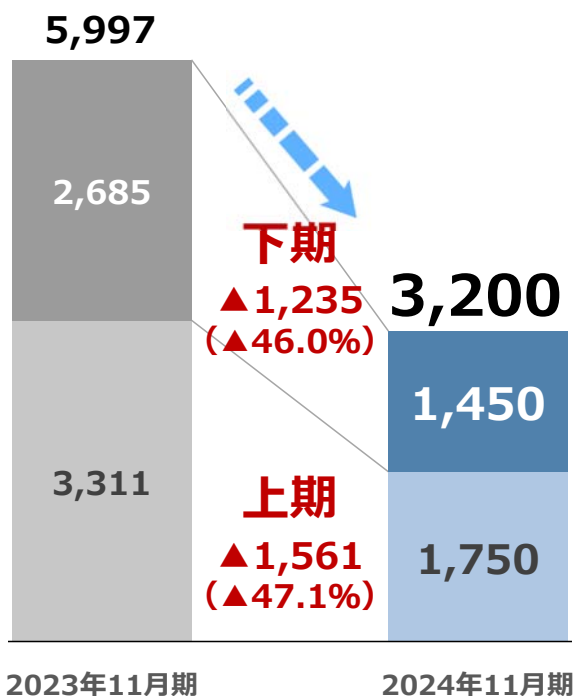
- 国産針葉樹合板
 - ✓ 競争激化により、販売価格は値下がり傾向が続く見込み
- 輸入南洋材合板
 - ✓ 販売価格は横ばいの見込み
- 販売量の確保に努める

連結業績予想のポイント（セグメント利益）

(百万円)

合板事業

前期比 ▲2,797 百万円
(▲46.6%)



・国産針葉樹合板

✓ 販売価格は値下がり傾向が続く見込み

・輸入南洋材合板

✓ 円安により仕入コスト上昇
✓ 価格転嫁し辛い状況続くが、適正価格での販売に努める

NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

33

配当予想

2024年11月期

NODA

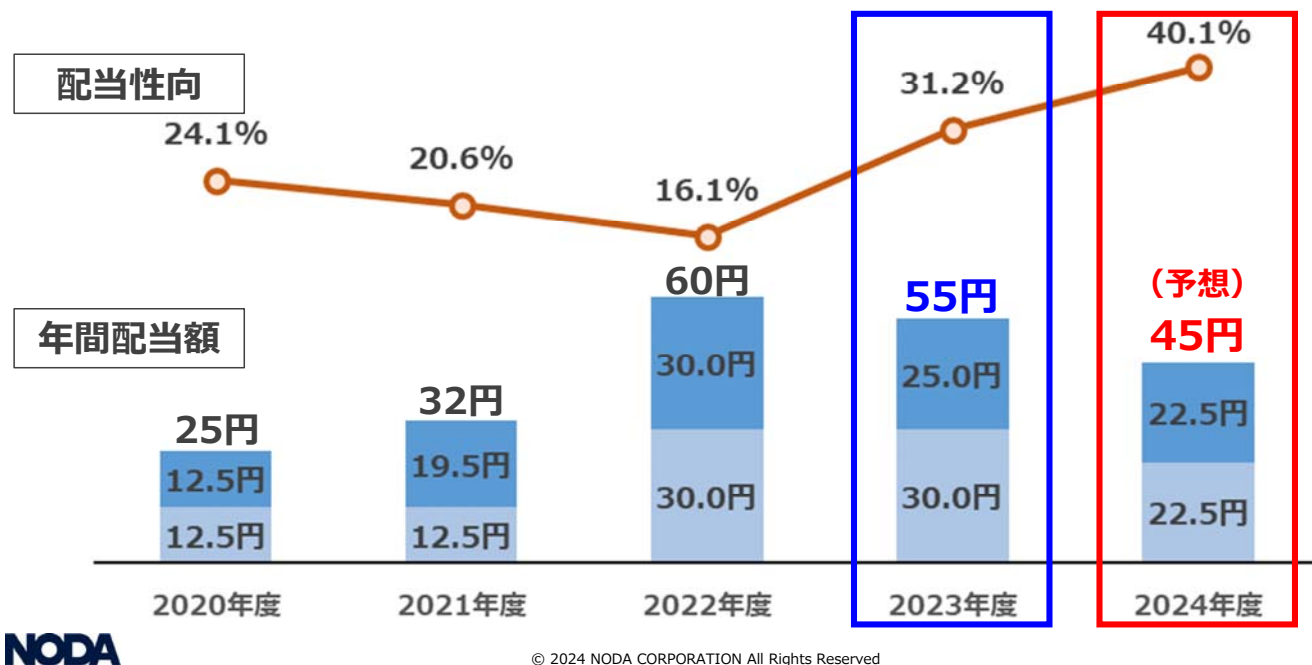
© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

34

配当金の推移（直近5年間）

配当の基本方針：

- ・業績の状況及び配当と内部留保のバランスに配慮しながら、配当の安定性を確保するとともに、株主の皆様への利益還元を行う
- ・内部留保金については、財務基盤の充実強化並びに今後の事業展開に役立てる



中長期的な成長戦略

ビジョン2030

「ビジョン2030」策定の背景

● 国内人口・世帯数の減少と少子高齢化・長寿命化

- 新設住宅着工戸数の減少
- 施工を担う職人の減少
- 安全な住空間の需要が増加

➔ **新築住宅向け建材事業領域は、徐々に縮小する見込み**

コロナ禍や住宅価格上昇により、市場の縮小が前倒しで顕在化

ビジョン2030「木の心地よさを住まいから様々な空間へ」

● 住宅市場での競争力を強化し、シェア拡大

● 新たな市場を開拓し、事業領域を拡大

➔ **持続的に成長し、社会に貢献する企業であり続ける**

取り組み中の主な施策

住宅向けシェア拡大

- 省施工・高意匠性など高付加価値製品の開発・提案強化
- HBW提案強化（ZEH普及、地震対策）
- リフォーム・リノベーション向け・貸家向け製品の拡充、提案強化
- Web・SNSを活用したブランド力強化

非住宅向け事業領域拡大

- UD製品（高齢者施設・幼保施設向け）の拡充・提案強化
- 公共・商業施設の市場開拓に向けたマーケティングの推進
- 素材（合板・MDF）の研究開発強化
- 材工一貫体制の整備推進
- M&A（株）アリモト工業の子会社化）

取り組み中の主な施策

経営基盤の強化（人材・IT投資）

- 人事制度の見直し（各種手当、待遇改善）
- ITの活用（業務の効率化・省力化）
- 職場環境の改善
（社員意識調査、ハラスメント研修・相談窓口設置、設備改修）



- ✓ 住宅需要や合板相場に左右されにくい体制の構築を目指す
- ✓ ビジョン2030実現のため、今後も必要な成長投資を行う

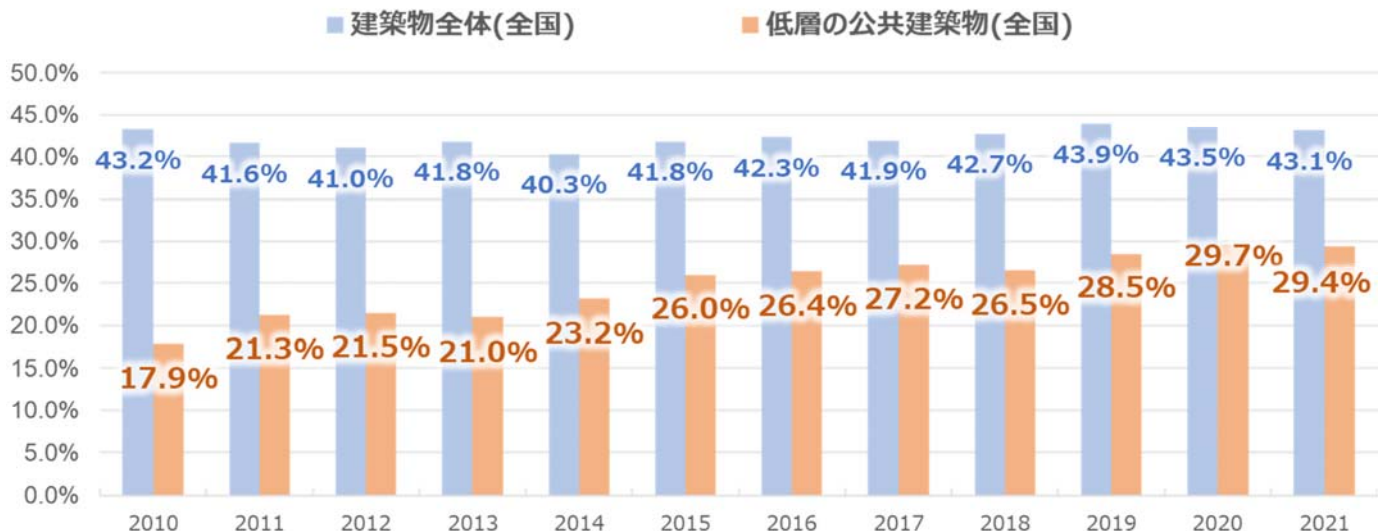
非住宅建築物の木造化・木質化

- 「木材利用促進法」施行以降、低層公共建築物の木造率は大幅上昇
- 法改正により、今後は建築物全般の木造化・木質化促進が期待される

2010年10月施行「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」

2021年10月改正「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」

➡ 木材利用促進の対象を、“公共建築物”から“民間建築物を含む建築物一般”へ拡大



資料) 林野庁「令和3年度の公共建築物の木造率について」2023年3月24日

アリモト工業の子会社化

公園・景観施設向け木製外構構造物の設計・木材加工・施工・メンテナンスを一気通貫に展開する老舗企業を買収(2023年7月)



テーブルベンチ



東屋



フェンス



滑り台



木造橋



ウッドデッキ

会社概要

社名	株式会社アリモト工業
本社・工場	鹿児島県 鹿屋市
創業・設立	1952年4月
社員数	24名 (2023年9月末)
売上高	526百万円 (2023年9月期)
事業内容	木製外構構造物の設計施工・製造販売・メンテナンス等



子会社化の背景・目的

● 非住宅分野への事業領域拡大

- 長期的な新設住宅着工の減少を見据えたビジョン2030「木の心地よさを住まいから様々な空間へ」推進の一環
- 同社の技術や販路を活用しながら、住宅以外の建築物や公共空間へも事業の拡大を目指す

● 素材事業の強化

- 将来的に合板やMDF（中質繊維板）の用途拡大や製品開発を共同で行うことも検討

2024年12月～ 連結子会社化（予定）

営業・施工分野での同社との協力体制や、連結決算に組み込むための体制を整備中

ESGに関する取り組み

ESGに関する取り組み

【企業理念】主体的に価値創造に挑戦することにより個の成長を促し、さらなる社会貢献を実現できる企業を目指します

Environment

【国産材の活用】

健全な森林の整備と CO₂の削減に貢献

MDFや国産針葉樹合板の原材料として国産材(間伐材・未利用材等)を積極的に活用



【廃木材の活用】

森林資源の保護に貢献

再生資源・未利用資源である廃木材をチップとしてリサイクルし、エコ素材であるMDFを製造



住宅解体作業等から出る
廃木材チップ

ESGに関する取り組み

【企業理念】主体的に価値創造に挑戦することにより個の成長を促し、さらなる社会貢献を実現できる企業を目指します

Social 【職場環境の改善】

社員意識調査

- ・役職員が経営の方針・戦略を共有し、同じ方向に進んでより大きな成果を生むことが目的
- ・職場環境や制度待遇の改善、役職員間の対話機会増加など、継続的に取り組んでいく
(回答率) 2022年4月:99.5%、同年10月:98.1%、2023年4月:97.9%、同年10月:99.0%

ハラスメント防止研修実施、相談窓口設置

- ・良い行動・悪い行動を学び、良好な人間関係を構築
- ・社内の意思疎通を円滑にして生産性向上を目指す
- ・2023年12月、ハラスメント相談窓口を社内外に設置
- ・ハラスメントを防止・撲滅し、働きやすい職場づくりをさらに推進していく



ESGに関する取り組み

【企業理念】主体的に価値創造に挑戦することにより個の成長を促し、さらなる社会貢献を実現できる企業を目指します

Social

静岡県「ふじのくに森の防潮堤づくり」に協力

植栽林を潮風や砂から守る木杭材料として、合板の製造過程で発生する芯材(丸太の剥き芯)を寄贈し、地域社会に貢献(累計89,560本、2024年1月末現在)



本取り組みが貢献する SDGs の目標



株式会社ノダは、持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



Governance

理念・ビジョンの浸透

- ・経営トップ自らが継続して社内に発信
- ・ビジョンの実現に向け、テーマ別に戦略の立案・推進を実施



参考資料

「ビジョン2030」経営理念

現在ならびに将来の様々な環境変化に対応し、持続的に成長し社会に貢献する企業であり続けるため、2021年2月に経営理念を改訂

ビジョン2030 木の心地よさを住まいから様々な空間へ

ノダグループは、持続的に成長し社会に貢献する企業であり続けるため、以下の通り経営理念を定めます。

【企業理念】

主体的に価値創造に挑戦することにより個の成長を促し、さらなる社会貢献を実現できる企業を目指します

【ミッション】 社会に果たすべき使命

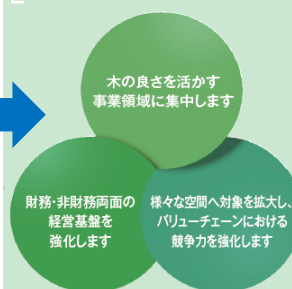
- ・木の良さを活かして快適な空間創造に寄与します
- ・木をムダなく使い、持続可能な森林循環に貢献します

【コアバリュー】 理念実現のための共通の価値観

共生・誠実・しんか(深化・進化・伸化・新化)



ビジョン2030実現のための経営戦略



理念実現のための基本姿勢



「ビジョン2030」環境への取り組み

快適な空間創造に寄与する製品を提供し、持続可能な森林循環に貢献し続けるため、SDGsの以下の目標達成に取り組む

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ノダは、持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



11 住み続けられるまちづくりを

目標11

「住み続けられるまちづくりを」

誰もが幸せに住み続けられるまちをつくるために、ノダは「サステナブルな木造建築の実現」「エコロジー部材の提供」を通じて安心・安全に暮らせる空間づくりに努めてまいります。



12 つくる責任つかう責任

目標12

「つくる責任つかう責任」

持続可能な生産と消費を確保するために、ノダは「木質資源の製品・用途開発」「循環型の木質資源の活用」「廃棄源もムダなく使いこなす」に努めてまいります。



13 気候変動に具体的な対策を

目標13

「気候変動に具体的な対策を」

気候変動の原因となる温室効果ガス（主に二酸化炭素）を削減するために、ノダは生産工場におけるエネルギー効率向上はもとより、太陽光発電などクリーンエネルギーの利用や再生可能エネルギーの利用などにより、地球温暖化防止に努めてまいります。



15 陸の豊かさも守ろう

目標15

「陸の豊かさも守ろう」

森林循環に貢献するために、原木生産者の安定販売先としての受け皿になるとともに、自社保有林での伐採後の植林を進め、木質資源の価値創造に努めてまいります。

NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

49

連結業績推移（直近5ヶ年）

(金額単位：百万円)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (予想)
売上高	62,284	64,586	81,012	73,227	72,000
営業利益	2,788	3,829	9,797	4,701	2,800
－ 営業利益率	4.5%	5.9%	12.1%	6.4%	3.9%
経常利益	2,912	4,243	10,332	5,019	3,000
－ 経常利益率	4.7%	6.6%	12.8%	6.9%	4.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,691	2,535	6,056	2,834	1,800
ROE	6.3%	8.8%	18.3%	7.6%	—
総資産	58,596	63,998	76,632	76,371	—
純資産	30,516	33,503	40,730	44,041	—
自己資本比率	46.8%	47.0%	47.1%	50.8%	—
設備投資額	1,463	1,670	2,746	3,316	4,000
減価償却費	1,928	1,789	1,767	1,818	2,200
研究開発費	193	207	236	194	200

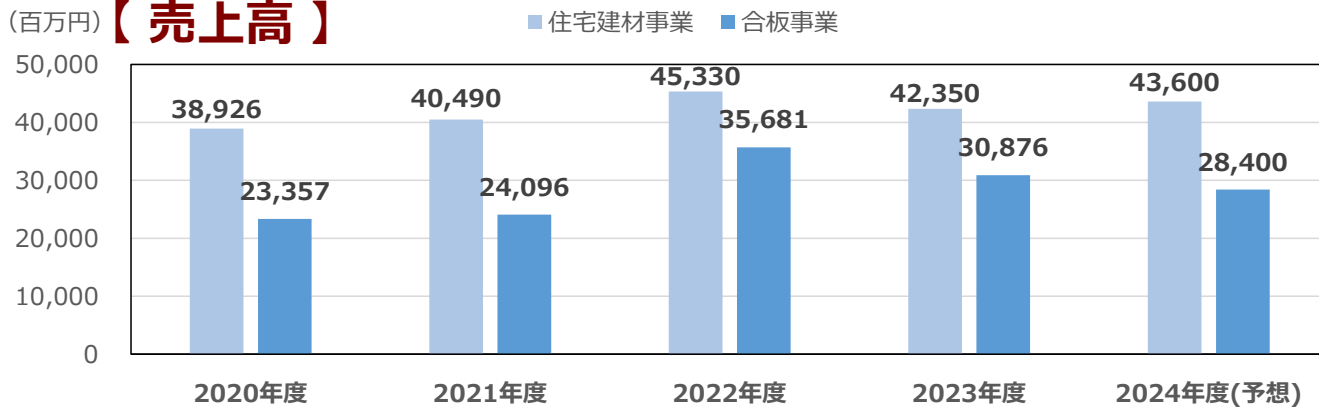
NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

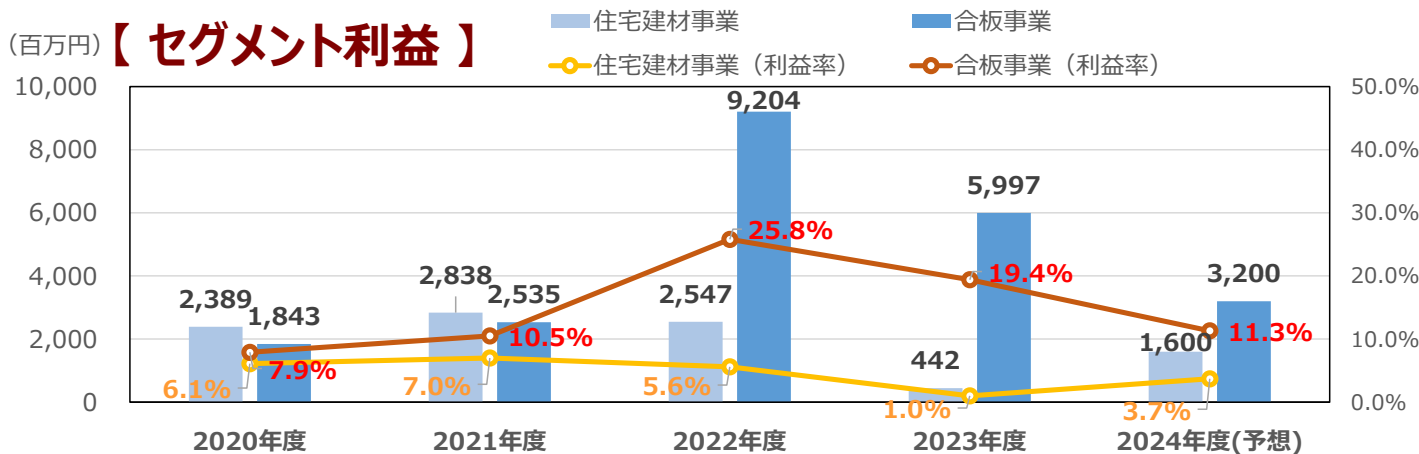
50

セグメント業績推移（直近5ヶ年）

【売上高】



【セグメント利益】



NODA

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved

51

NODA

株式会社ノダ IR情報

<https://www.noda-co.jp/corporate/ir>



IRに関するお問合せ先 info-ir@noda-co.jp

本資料は情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。
また、本資料に掲載されている計画や見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。そのため、今後様々な要因によって、本資料とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

© 2024 NODA CORPORATION All Rights Reserved